

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">ほとんどの生徒が授業には誠実に参加し、教師の発問に対して真剣に考えようとする姿勢をもっている。文章から情景を読み取り、頭の中で絵にできるように指導しているが、多くの生徒がその習慣を身に付けつつある。その一方で、心情を考える時に「もし自分だったら」と考えるように指導しているが、こちらはなかなか定着しない。漢字テストなど知識については意識的に取り組む様子が見られるようになった。
全国学力・学習状況調査	<ul style="list-style-type: none">調査の結果を見ると、国語 A（主として知識）も国語 B（主として活用）も全国の平均正答率より3ポイントほど下回っている。国語 A では、漢字の書きや語句の意味で平均をやや上回る問題があった。また、国語 B では「話す・聞く」の領域でやや力を発揮するが、「書く」の分野に苦手意識のある生徒が見受けられる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 使える言葉の数(語彙)を増やそうと授業の中で辞書を引く機会を増やしてきたが、なかなか使える言葉の数が増えず、語彙力を付けることに課題がある。
- 自分の経験に基づいて文章に書かれているその場の情景をイメージする力が十分育っていない。
- 自分が伝えたい状況と自分の意見を短い文章でまとめることが苦手な生徒が多い。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
言葉の知識を増やす 文章の理解 「書く」活動の充実	<ul style="list-style-type: none">国語辞典の活用の時間をさらに増やし、時に映像も交えて一層の定着を図る。また、漢字や言語事項の基礎の定着を目指し、繰り返しの演習で文章理解の基礎を定着させる。場面のイメージ化や登場人物の心情を自分の身に近づけるイメージトレーニングなど授業の中でその機会を増やしていく。作文や小論文などを書く機会を増やし、自分の考えをまとめ、伝える力を伸ばす。

平成 30 年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 社会】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">発言も多く意欲的に学習に取り組む生徒が多い。ノートやワークシートなども、生徒が工夫をし、それぞれにとって見やすくまとめることができる生徒が多くなった。思考・判断・表現、技能の向上を目指す指導により、様々な資料（統計グラフ、写真、絵、地図、年表など）の活用から、必要な情報を取り出し、まとめ、表現する能力が伸びている。1、2年生の基礎的知識が十分に身に付いていない生徒がみられる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い、「考える力」をさらに育成する必要。
- テストでの得点力は伸び悩んでおり、1、2年時の知識・理解の定着。
- 時事的な社会的事象に対し、今一步関心を高める必要。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
「考える力」の育成	<ul style="list-style-type: none">2年生に引き続き、学習した内容を「説明」し、「まとめる」活動を取り入れた授業を進める。また、複数の資料（年表・地図・グラフ・写真など）等を活用し、何が読み取れるなどを十分に考え、それをさまざまな方法で表現する場面を多く取り入れる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">1、2年時の知識・理解の定着を図るために、授業の一部を使い、振り返り学習を行う。新聞等を活用し、時事的な事柄を授業の中で取り扱う場面を設ける。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒は意欲的に学習に取り組み、問題解決のために試行錯誤しながら、自分で課題解決をしようと努力するが、基礎・基本の定着に課題がある。また、知識の活用に課題を抱えている生徒も多い。
全国学力 学習状況調査	★A・B問題とも全国・都の平均を下回っている。しかし、授業に対する関心の強い生徒も多いので授業の再構築を進め改善を進めたい。 A(知識)：平均正答率 全国66.1%、都67%、本校61% 特に、不等式、等式変形、一次関数などの問題に対し、課題を感じている。 B(活用)：平均正答率 全国46.9%、都49%、本校46% 事象を数学的に解釈し解決方法を説明することや、与えられた情報を的確に処理すること、数学的な表現などの再確認の必要性を痛感する。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各クラスに、算数部分の技能、知識・理解が未習得の生徒がいる。また、昨年に比べ「見方や考え方」の定着しつつある生徒が増えてきたが、未だに課題をもっている生徒が多い。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立と 学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">規則正しい生活習慣の確立、授業内・朝学習等による反復練習の徹底補助教材やICTを利用した教材の作成・研究を進める。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">毎時間、習熟度による個人指導の徹底(知識・理解、技能・考え方)特に生徒の苦手分野(基準量・比較量・割合など)においては、関係する内容を学習するたびに復習する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業には集中して取り組み、意欲的に取り組む生徒が多い。天体の分野は興味・関心をもって意欲的に取り組める一方、化学変化とイオンの分野などは苦手意識をもち、学習に対して消極的な生徒が多い。イオン式などの習得に時間がかかり、科学的に思考する段階まで到達しない生徒が多い。
全国学力 学習状況調査	<ul style="list-style-type: none">第2分野の正答率が全国より7ポイント低い。科学的な思考・表現に関する問題の正答率が全国より6ポイント低い。記述式の問題の正答率が全国より7ポイント低い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

既習事項の習得が不十分であり、それらを活用して新たな問題を解決する学習まで到達しない生徒が多い。既習の内容を定着させ、それらを活用し、科学的に思考できるようになることが課題である。特に第2分野では、再現したり実験したりすることが困難な事物・事象についての観察や、資料を調べる活動をし、そこから考察することができるようになることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
1・2年生の復習 思考力の育成	<ul style="list-style-type: none">ワークブックを課題とし、3年間の内容を最低2回は復習するように促す。定期考査や小テストで1・2年生の内容を出題する。日々の授業で、既習事項と関連付けた授業を心がける。観察や実験の結果を分析し解釈する時間を確保する。図書資料やICTを活用する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。その反面、実技面において、基礎知識の理解に個人差があるため、発展的な指導の理解が不十分であると感じている。歌唱においては、授業を楽しみに来ている生徒が多く、一人一人が確かな力を付けてきている。また器楽面においては、興味をもって取り組んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。歌唱においては、音程を合わせていくことやお互いの声を聴き合うことは、これまで培ってきたものが定着しているが、音楽表現の幅を広げることが難しい状態である。この根本は、音楽の基礎知識の理解が不十分であるために生じていると考えている。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことは、少しずつ改善されている。引き続き、時代背景や作曲者の意図や思いを照らし合わせながら鑑賞していき、音楽表現の幅を広げられるようすることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">音楽の基礎知識を定着させ、音楽表現につながるようにさせる。発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう発展的な技能を身に付けさせる。合唱を通して、核となるリーダーを育て、お互いに学び、高め合う姿勢を発展させる。楽器を使用する際は、ペアワークをメインにし、生徒同士が高め合えるような指導を行っていく。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none">グループ発表の場を増やし、お互いに認め合う心を育てる。より専門的な表現の幅を広げるために、歌詞の意味を理解したり時代背景、作者の願いを調べたりすることを通して、身体全体で表現できるような喜びをもたせる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">習得した美的体験を、新たな課題に対して発揮していこうとする意欲的な態度がある。自分の発想を大切に表現しようとするが、表現技法が十分身に付いていないことから、表現活動に結び付かない傾向がある。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする生徒がいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 創作意欲があっても美術作品としての表現力に結び付かない傾向がある。それぞれの課題について、生徒個々の表現活動における課題を細かく観察して、適切な指導を行うことが課題である。
- 課題に対して、意欲的に取り組もうとする姿勢をさらに高める態度を育成することが課題である。自己との対話を深く掘り下げさせられる指導が必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像や画像を例示し、視覚的に把握させる。
基礎的な技能の向上	<ul style="list-style-type: none">表現の幅を広げるための指導方法の工夫を行い、生徒が興味をもって創作活動ができるようにする。また、身の回りの美術に触れさせ、美術の社会的役割を理解させることで、表現活動を身近な生活の営みの一つとして理解させ、創作活動を喚起させる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生男子】 【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未習得であったりする生徒が見られる。特に、陸上競技に関しての経験が不足している。中でも、アジリティなどの細かいステップ、動作を苦手とする生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	体力テストの結果から、全国の平均値を下回った種目・握力(学校平均 31.1kg、全国 T スコア 44.1)・上体起こし(学校平均 28.7 点、全国 T スコア 30.5)・長座体前屈(学校平均 44.5 点、全国 T スコア 47.1)・反復横跳び(学校平均 53.4 点、全国 T スコア 56.1)50m走(学校平均 7.3 秒、全国 T スコア 7.4 秒)・立ち幅跳び(学校平均 209.7 点、全国 T スコア 212.4)ハンドボール投げ(学校平均 23.2m、全国 T スコア 24.1) の記録の向上が課題である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での思考力・判断力の部分では、言語活動を苦手とする生徒が多い。学習カードに、自らの考えを、時間をかけて整理して書くということではできるようになってきた。しかし、授業内でのグループ活動内において、言葉で教え合うという部分は苦手と感じている生徒が多い。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none">毎授業での授業規律を明示する。
体力・学力 の向上	<ul style="list-style-type: none">各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを取り入れる。各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動を実施する。
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">小グループ活動を増やし、教え合いによる言語活動の充実を図る。教え合いの役割を果たすことにより、一人一人の自己肯定感を高める。技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生女子】

【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業における規律を守ることや集団行動においては自主的に取り組めるようになっている。しかし個々の体力、運動技能等にかなりの個人差が見られる。また定期テストから課題を解決するために自分の考えを論理的に述べることに課題がある。
東京都統一 体力テスト	体力テストの結果から、全国の平均値を下回った種目・握力(学校平均 23.9kg、全国 T スコア 46.2)・反復横跳び(学校平均 47.6 点、全国 T スコア 49.2)・持久走(学校平均 297.4 秒、全国 T スコア 46.7)・立ち幅跳び(学校平均 162.6cm、全国 T スコア 44.6)・ハンドボール投げ(学校平均 13.3m、全国 T スコア 47.3) の記録の向上が課題である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目ごとに、楽しさや喜びを味わうことができている。また、積極的に取り組もうとしている。しかし、運動体験が不足していたり、あるいは未習得であったりする生徒が見られるため、それぞれの特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。特に、球技に関する経験が不足している。空間認知能力の、捕る、投げるなどの動作に課題がある生徒が多い。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
体力の向上	<ul style="list-style-type: none">各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを行う。各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動を実施する。
基礎基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none">小グループ活動を増やし、教え合いによる言語活動の充実を図る。運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着を図る。学習カードを活用し、運動のポイントや解決策などを自分の言葉で記入し、論理的な表現をできるようにする。技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 技術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">多くの生徒が授業における規律やルールを守り、課題に対して意欲的に取り組んでいる。隔週の授業であるが行事などで数週間、授業があくことがあり、興味・関心をもち続けることに個人差が生じやすい。難しい取り組み(課題)に挑戦しようとする向上心のある生徒が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 授業に対する態度はとても良いが、作業の意図が不十分な理解のまま、取り組む生徒も少なからずいる。
- 作業が遅れがちな生徒に対しては机間指導を頻繁に行い、授業の中で適切な個別指導をする必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT 機器の 効果的な活用	<ul style="list-style-type: none">ICT 機器を効果的に活用することで、前時の学習内容を短時間で確認すると共に作業内容を分かりやすく伝え、見通しをもった授業展開をする。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">生徒が興味・関心を抱く実用的な教材としてプログラミングの概念を習得させる。また、プレゼンテーションソフトを使用して課題をまとめ、表現する能力の向上に努める。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">机間指導を頻繁に行うことで、実習作業の遅れがちな生徒のつまずきの的確なアドバイスを行い、興味・関心を失わないように指導の工夫を重ねる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 家庭】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">多くの生徒が授業における規律を守り、落ち着いた態度で臨んでいる。隔週の授業のため、興味関心を持続させるところが難しい生徒もいる。自分の生活を振り返りながら授業に臨んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

授業へ意欲的に参加する生徒が多いが、積極的になれない生徒もいる。一人で考えるだけでなく、少人数のグループで話し合ったり、作業に取り組んだりすることで、興味・関心をもち内容を深めていくことが課題である。また、生活体験の違いは大きいですが、他の生徒の話聞くことで家庭生活に対する多様なイメージをもたせることが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">作品作りの計画が進められない生徒に対して、手助けとアドバイスにより一人一人に細やかな指導行う。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">短時間の中で作品が完成するように、絵本作りの計画を夏休みの課題として、時間を上手に配分して作業が進められるようにする。隔週の授業なので、1時間で完結していくように授業内容を精選していく。
主体的・対話的で深い学びの工夫	<ul style="list-style-type: none">既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をし合うことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業では、対話的な活動であるペア活動やスピーチには、積極的に取り組む生徒が多い。その反面、書く活動、読む活動、単語の暗記など、忍耐を要する学習になると、極度に意欲が低下する生徒がみられる。また、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もみられる。しかし、昨年度と比べて、ワークの仕上がり、朝テスト、一学期の中間・期末テストの結果などをみると、その生徒数は確実に減ってきているといえる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

話す活動では、積極的に取り組む生徒が多く、英語学習に対する意欲はある。しかし、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いことが一番の課題である。英文や文法をしっかりと理解し、その後の反復による運用が理解した知識を脳に定着させるといった順序を大事にし、英語学習のプロセスの大切さを生徒に理解させることが大切である。生徒の英語学習に対してモチベーションが上がる、分かりやすく、生徒参加型の授業を展開することが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の徹底した授業	授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、授業内で定着させる時間を確保する。こうすれば、生徒は知識が定着した状態で、家庭学習に臨むことになり、ストレスを感じずに家庭学習に取り組むことができる。また、3年次の教科書で1・2年次の既習の文法事項・表現も、出してくれば、パターンプラクティスなどを通して反復のある復習をする。
分かりやすい授業	理解していない生徒がいれば、適宜、日本語で簡潔な解説を加えるなどする。生徒がペア活動を行っている間の机間指導中に、理解できていない生徒をケアする。
生徒の英語運用を中心とした授業	本校の生徒の特性を考えれば、「英語でもっと話せるようになりたい」という気持ちが、生徒を主体的な家庭学習に導くと考える。授業内で生徒が好むペア活動などの「運用（習ったことを使い英語で他生徒と話す対話的な活動）の時間」も十分にとり、自分の考えを表現する楽しさを感じさせながら、モチベーションを上げ、家庭学習につなげる。